

# 英語教育改善プラン推進事業 第1回ワーキング会議



令和3年6月23日（水）  
山梨県総合教育センター  
義務教育課・高校教育課

# 小・中・高等学校を通じた英語教育強化事業

令和3年度要求・要望額  
(令和2年度予算額)

405,555千円  
379,820千円)



新学習指導要領の全面実施、「第3期教育振興基本計画」等に掲げられた目標の実現に向けて、2020年度から新しい英語教育が始まった小学校において質の高い指導体制の構築、全国学力・学習状況調査等で課題が明らかとなっている中学生・高校生の英語での発信力（話す・書く力）強化が喫緊の課題。各地域の課題を踏まえた取組の推進や新たな指導法等の開発等を進め、全国的な英語教育の水準の向上、効果的かつ持続可能な体制を構築する。

動画による説明  
はこちらから→



## 指導体制の強化

免許法認定講習の開設等 教員養成  
機関等による専門人材育成・確保事業  
52百万円

<委託先> 国立大学法人、学校法人、都道府県・指定都市教育委員会、専門機関等  
<箇所数> 20箇所程度

### <小学校に関する取組例>

- 小学校教員等が中学校教諭免許状（英語）を取得するための免許法認定講習
- 大学と教育委員会が連携し、小学校英語専科教員として指導ができる人材育成講習
- 教員養成課程の学生等を対象にした、専門性の高い小学校外国語指導者の養成・確保のための取組（教師塾）

### <小・中・高等学校に関する取組例>

- 特別免許状等を利用した人材活用（ネイティブ・スピーカーや英語が堪能な人材等）のための講習
- 外国語指導助手（ALT）等を対象とした資質・能力向上のための講習等
- 英語以外の外国語における専門性の高い外国語指導者の養成・確保のための講習や教材開発等

## 指導力向上及び条件整備

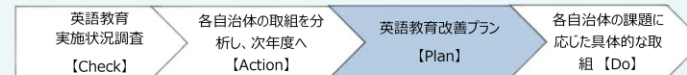
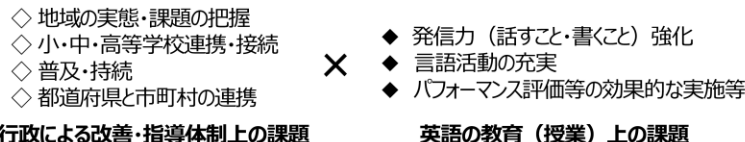
### 英語教育改善プラン推進事業

100百万円

都道府県・指定都市教育委員会が、地域の実態や課題に応じて策定している「英語教育改善プラン」の取組の中で、特に英語教育実施状況調査等で全国的に課題となっている課題等への効果的な指導方法の開発や研究・検証、事例集や普及資料の作成を支援する。

また、各種調査等の結果も含めた成果分析を行い、国として効果的な取組等を普及し、英語教育におけるPDCAサイクル、EBPMを促進する。

<委託先> 都道府県・指定都市教育委員会（成果検証は研究機関等）  
<箇所数・単価> 20箇所程度、450万円程度/箇所



### 新たな外国語教育に対応した条件整備・情報発信事業

169百万円

小学校外国語活動教材「Let's Try!」の配布。小・中・高等学校の授業事例等の映像資料を作成。

### （新規）コロナ禍における外国語指導助手オンライン研修体制の整備

26百万円

JETプログラムによるALT（外国語指導助手）来日研修を、コロナ禍における防疫措置下等でも確実に実施するため、プログラムの企画、コンテンツ開発・作成をする。

## 指導力等強化のための実証研究

### 先導的なオンライン研修実証研究事業

58百万円

英語による指導力向上のため、専門的な自己研鑽の機会の地域間格差の解消、コロナ禍における状況でも教員が学び続ける機会の確保に向け実証研究を行う。

<委託先> 専門機関等  
<箇所数・単価> 2箇所 29百万円/箇所

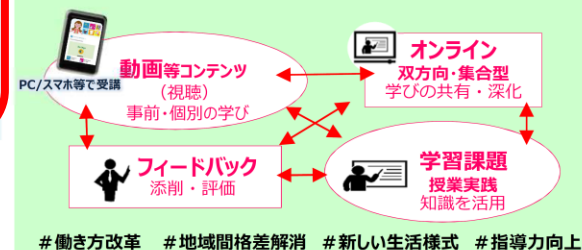
#### ◆中・高等学校教員プログラム

国内いながら、英語による海外の大学等の授業受講を可能とし、英語で専門的な授業を受ける体験を、実際の授業とリンクさせ指導力を向上。

#### ◆小学校教員プログラム

指導に必要な英語を学びながら、実際に授業で活用することを通して、授業を通して英語力と指導力を向上。

※参加自治体・教員については委託先決定後公募。



#働き方改革 #地域間格差解消 #新しい生活様式 #指導力向上

### 関連事業

#### 専科教員の加配措置（3,000人）

小学校外国語教育の早期化・教科化に伴う専科指導に必要な教員の充実



※小学校は2020年から全面実施、高等学校は2022年から学年進行で実施。

# 山梨県英語教育改善プラン推進事業 (令和3年度～令和4年度)

## 【背景】

- 第三期教育振興基本計画（2018～2022）及び新学習指導要領。
- グローバル化の進展に伴い、国内外の様々な場面において、外国語で躊躇なく意見を述べ、他者と交流し、共生する力の育成が求められる。
- 外国語教育の強化（小学校外国語教科化、中学校卒業時の英語力CEFR A1 50%以上、高等学校卒業時の英語力CEFR A2 50%以上）

## 【課題】

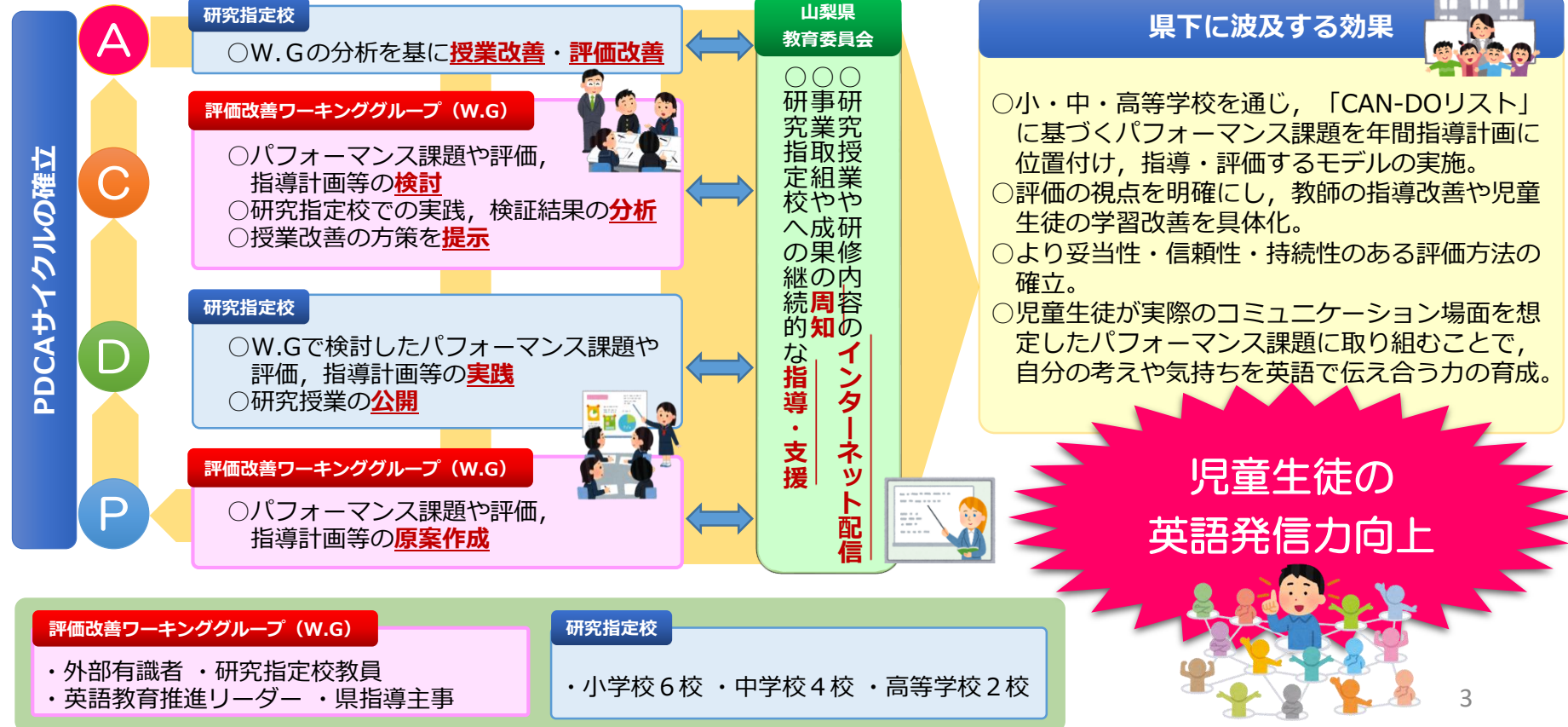
- 「話すこと」において妥当性・信頼性のある評価の実施が課題。
- 国の各調査結果から、中・高校生の「話すこと」「書くこと」に課題。
- 中学校卒業時の生徒の英語力 山梨県35.5% 全国44.0%
- 高等学校卒業時の生徒の英語力 山梨県44.7% 全国43.6%
- 「CAN-DOリスト」※1の学習指導・評価への活用が課題。

※1 CAN-DOリスト：外国語における4技能5領域ごとに「～することができる」という学習到達目標を記述したもの。

## 【事業目的】

小・中・高等学校を通じて、グローバル社会に生きる児童生徒に求められる英語による発信力を向上させるために、実際の目的・場面・状況に応じた英語を活用する課題（パフォーマンス課題）を設定し、指導・評価するモデルを構築する。

## 【事業内容】



## 事業目的

①小・中・高等学校を通じて、②グローバル社会に生きる児童生徒に求められる英語による発信力を向上させるために、③実際の目的・場面・状況に応じた英語を活用する課題（パフォーマンス課題）を設定し、④指導・評価するモデルを構築する。

### ①小・中・高連携・接続

【情報交換・交流】 学習・指導・評価における内容や方法等

【カリキュラム】 各校種「学習指導要領領域別目標」

各校「CAN-DOリスト」学習到達目標（※CEFR・山梨県版）

### ②山梨県の課題（全国学調・英語教育実施状況調査結果より）

山梨県学校教育指導重点の一つ

「話すこと[やり取り]」・「話すこと[発表]」・「書くこと」

※受容技能「聞くこと」「読むこと」も研究の対象

複数の領域を統合した言語活動

## 事業目的

①小・中・高等学校を通じて、②グローバル社会に生きる児童生徒に求められる英語による発信力を向上させるために、③実際の目的・場面・状況に応じた英語を活用する課題（パフォーマンス課題）を設定し、④指導・評価するモデルを構築する。

③パフォーマンス課題の充実・在り方

パフォーマンス評価（ルーブリック・ICT活用等）の充実・在り方  
＝言語活動の充実・在り方

④「指導と評価の一体化」（バックワードデザイン）

＝授業改善

提案授業をインターネット配信（オンラインで配信）

指導案や成果物を教育委員会のHP等にアップ

# 評価改善ワーキンググループ (W.G.)

【原案作成】

【検討】

【分析】

【提示】

評価改善ワーキング 30名程度

○有識者アドバイザー 4名

座長 : 田中武夫教授 (山梨大学)

小学校 : 酒井英樹教授 (信州大学)

中学校 : 太田洋教授 (東京家政大学)

高等学校 : 亀谷みゆき教授 (朝日大学)

○研究指定校 12名

○英語教育推進リーダー 3名

○総合教育センター指導主事 4名

○教育事務所・甲府市教委指導主事 5名

○義務教育課・高校教育課指導主事 3名



※第1回 6月23日(水)

県総合教育センター③④⑤ 14:30~16:45

第2回 9月 9日(木) 小・高

県総合教育センター①④⑤ 14:30~16:45

9月27日(月) 中

県総合教育センター⑤ 14:30~16:45

第3回 2月24日(木)

県総合教育センター①④⑤ 14:30~16:45

# 研究指定校

【授業改善・評価改善】

【実践】

【公表】

## ※各校から出されたキーワード 6/23現在

- 常永小 : 小中接続を意識したCAN-DOリストの整備・バックワードデザインによる授業設計「話すこと[やり取り]」・効率的かつ信頼性・妥当性の高い評価法の模索
- 小立小 : パフォーマンス評価・外国語活動及び外国語科の授業づくり・振り返りシート
- 韭崎小 : 思考力, 判断力, 表現力の育成・相手意識・一人一台端末による言語活動の充実・CAN-DOリストに基づいたパフォーマンス評価の妥当性
- 加納岩小 : パフォーマンス評価・ルーブリック・バックワードデザインを意識した指導と児童の実態に即した評価の一体化
- 睦合小 : CAN-DOリスト, Challengeリストの作成・パフォーマンス課題・教材作成
- 丹波小 : CAN-DOリストに基づく授業改善・話すこと[やり取り]のパフォーマンス評価
- 押原中 : 話すこと[やり取り] (即興性)・Small Talk の持続的かつ計画的な実施・パフォーマンス評価・バックワードデザイン・小中校連携 (CAN-DOリスト)
- 湖南中 : 話すこと[やり取り] (即興性)・Small Talk・パフォーマンステスト・ルーブリック
- 南西中 : 話すこと[やり取り] (即興性)・一人一台端末を用いた効果的な指導と評価・生徒にとってわかりやすいルーブリックの作成
- 長坂中 : 話すこと[やり取り] から書くことへ・パフォーマンス課題・小中連携  
論理的に思考し, 表現する力, 大切な部分を読み取る力
- 甲府昭和高校 : 4技能5領域版CAN-DOリスト・話すこと[やり取り]の  
パフォーマンステスト
- 富士河口湖高校 : 4技能5領域版CAN-DOリスト・話すこと[やり取り]の  
パフォーマンステスト・ルーブリックによる評価, 検証



# 山梨県教育委員会

【指導・支援】

【周知】

【インターネット配信】

○研究指定校への継続的な指導・支援  
学校訪問・学習会等

○事業取組や成果の周知

- ・教育課程説明会(中:8月4日・小:6日)・教育課程研究会(年間4回)
- ・小・中・高連携研修会(8月10日(火)教育センター)
- ・小学校英語専科教員研修会(9月14日(火)教育センター)
- ・中学校英語教諭対象学習会(10月12日(火)教育センター)
  
- ・高等学校英語科研修会(6月10日(木)・9月7日(火)・11月12日(金))
- ・県総合教育センター各種研修 ※山田教科調査官・市川学力調査官来県
- ・山梨県教育委員会HP等で周知
- ・令和4年度末成果発表会

○研究授業や研修内容のインターネット配信

- ・民間企業による提案授業の撮影・YouTube限定アーカイブ配信  
(最大6本程度:3~4日間で午前1本・午後1本)
- ・県教委によるZoomオンライン配信  
(上記以外の提案授業と研究会・年3回ワーキング)



# 平成31年度(令和元年度)全国学力・学習状況調査 中学校・英語「話すこと[やり取り]」

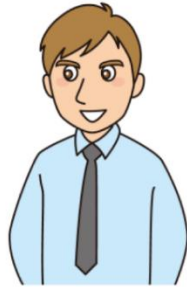
ユイコ



あなた



アラン先生



大問2 あなたは、ユイコとアラン先生と話しています。まず、ユイコとアラン先生が、2人で話している場面から始まります。そのあと、あなたが尋ねられたら、2人のやり取りの内容を踏まえて、会話が続いていくように英語で応じてください。解答時間は20秒です。それでは始めます。

山梨県 正答率 9.4%  
全国 正答率 10.5%  
(参考値)



A: Look at this picture of my family.

アラン先生が見せている写真



A: This is my favorite picture.

Y: Nice! Who is she?

A: Oh, she is my mother, Nancy. And he is my brother, Tom. He can cook very well.

Y: I see. What kind of work does your mother do?

A: She is a teacher.

アラン先生が見せている写真



A: Do you have any other questions about them?

(解答時間 20 秒)

# 平成31年度(令和元年度)全国学力・学習状況調査の調査結果を踏まえた 学習指導の改善・充実に関する 中学校 英語 指導資料



本指導資料は、平成31年度(令和元年度)全国学力・学習状況調査の調査結果を踏まえた、中学校英語の学習指導の改善・充実に関する指導事例を示したものです。調査問題の分析結果から明らかになった課題を解決するために、育成すべき資質・能力を明確にし、その資質・能力を育成するための学習過程を紹介しています。この学習過程は、汎用性をもつものです。学校や生徒の実態等に合わせて、映像資料とともにご活用ください。

## 目次

本指導資料の見方	i
事例1 語や文法事項等を正しく用いて表現する	1
事例2 聞いて把握した内容について適切に応じる	8
事例3 テーマについて考えを整理し、まとまりのある文章を書く	15
事例4 質問をしたり答えたりしながらやり取りする	25

上のQRコードを読み取ると、各事例の映像資料をご覧になれます。

## 本指導資料の見方

事例ごとに「育成を目指す資質・能力」を示しています。

1. 平成31年度(令和元年度)全国学力・学習状況調査の結果から

【調査問題の概要と結果】  
平成31年度(令和元年度)全国学力・学習状況調査の調査問題の概要と結果について記述しています。

【分析結果と課題】【学習指導に当たって】  
平成31年度(令和元年度)全国学力・学習状況調査の報告書や授業アイデア例に基づき、「分析結果と課題」、「学習指導に当たって」の項目から、事例に関連する内容を記載しています。

本指導資料において、留意すべき指導上のポイントを以下の4人の先生の会話形式で示しています。

英語教育指導リーダー 英語教育指導リーダー 英語科教師 英語科教師

2. 本事例のポイント  
調査結果から明らかになった課題を解決するための学習過程を示しています。

※ 本指導資料では、次の資料については略称を用いています。

資料	略称
平成31年度(令和元年度)全国学力・学習状況調査【中学校】報告書	報告書
平成31年度(令和元年度)全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた【中学校】授業アイデア例	授業アイデア例

3. 本事例で扱う単元について  
各事例で扱う単元の学習指導案を示しています。  
1 単元の目標  
2 単元の評価規準  
3 単元の指導計画  
4 本時

\*単元の評価規準については、「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料(令和2年3月)を基に作成しています。

4. 本事例における指導の工夫等  
各指導事例において、生徒自身が単元のねらいにせまることのできるような指導上の工夫について示しています。  
\*ワークシートについて\*  
本指導資料では、生徒の実態及び単元を通じた学習過程を明らかにするために、生徒のワークシートをそのまゝ掲載しているところがあります。御覧ください。

# 「質問したり答えたりしながらやり取りする力」を育成する

話すこと2〔家族の質問〕 正答率10.5%

外国語表現の能力

## 【出題の趣旨】

聞いて把握した内容について、やり取りすることができるかどうかをみる。



アラン先生が見せている写真



(スクリプト)

A: Look at this picture of my family.  
This is my favorite picture.

Y: Nice! Who is she?

A: Oh, she is my mother, Nancy.  
And he is my brother, Tom.  
He can cook very well.

Y: I see. What kind of work does  
your mother do?

A: She is a teacher.  
Do you have any other questions  
about them?

# 「質問したり答えたりしながらやり取りする力」を育成する

	解答類型	反応率 (%)	正答
1	やり取りを踏まえた内容（ナンシーやトムに関連した質問）を、正確な英語（語や文法事項等の誤りがない）で解答しているもの	8.4	◎
2	やり取りを踏まえた内容を解答しているが、コミュニケーションに支障がない程度の誤りがあるもの	2.1	○
3	やり取りを踏まえた内容を解答しているが、コミュニケーションに支障をきたすような語や文法事項等の誤りがあるもの	6.5	
4	やり取りを踏まえた内容を解答していないもの	33.5	
5	既出の情報について質問しているもの	0.9	
99	上記以外の解答	27.8	
0	無解答	20.7	

「質問したり答えたりしながらやり取りする力」を育成する

	解答類型	反応率 (%)
4	やり取りを踏まえた内容を解答していないもの	33.5

(例)

・What food do you like?

→ 会話の流れを踏まえていない

・It's a nice picture.

・I'm hungry. Christmas chicken ^ very good.

→ 単に感想や自分の気持ちを述べている

# 「質問したり答えたりしながらやり取りする力」を育成する

	解答類型	反応率 (%)	正答
1	やり取りを踏まえた内容（ナンシーやトムに関連した質問）を、正確な英語（語や文法事項等の誤りがない）で解答しているもの	8.4	◎
2	やり取りを踏まえた内容を解答しているが、コミュニケーションに支障がない程度の誤りがあるもの	2.1	○
3	やり取りを踏まえた内容を解答しているが、コミュニケーションに支障をきたすような語や文法事項等の誤りがあるもの	6.5	
4	やり取りを踏まえた内容を解答していないもの	33.5	
5	既出の情報について質問しているもの	0.9	
99	上記以外の解答	27.8	
0	無解答	20.7	

48.5%

14

「質問したり答えたりしながらやり取りする力」を育成する

	解答類型	反応率 (%)
99	上記以外の解答	27.8

(例)

- ・What's?
- ・Cooking.

→ 1, 2 語程度の発話や日本語での解答

## 【課題(分析結果)】

- △情報や考えなどを即興でやり取りすること。
- △相手の発話の内容を踏まえて、関連した質問や意見を述べて、対話を継続させていくこと。
- △やり取りの内容を理解していないか、何を問われているか理解していないため、適切な英語で応答できない。
- △いつ自分の発話機会が訪れるか分からない状況で、話されているやり取りを聞きながら、即興で応じることに慣れていない。

## 【学習指導に当たって】

- 日頃の授業で継続的にやり取りをする機会を増やし、質問をしたり答えたりしながらやり取りすることができる力を育てる。= 帯活動
- 準備時間を設けず、最初から即興で伝え合う場面を設定する。  
※必要に応じて、簡単なメモを見て話す支援もできる。
- 教師自身が対話を継続・発展させる方法(ストラテジー)を用いて生徒とやり取りすることでモデルを示す。
- 既習の教科書を用いて、本文中の対話にどのようなストラテジーが使われているかを生徒に振り返らせることも、生徒自身がそれらの有用性に気づき、意識的に使用することができるようになるために有効。



# 「質問をしたり答えたりしながらやり取りする力」 を育成するための学習過程

1. コミュニケーションを行う目的や場面、状況などを把握し、  
学習の見通しをもつ

「この単元でどのような力を身につける」  
のかという活動の目的を生徒と共有する。

2. 内容を整理して伝える

言語活動を通して何度も繰り返される。

マッピングやメモを基に、情報や  
自分の考え、気持ちなどを伝える。

3. やり取りを継続する

聞き返す / 確かめる / 相づち / つなぎ言葉 /  
答えに新たな情報を加える / 関連した質問 等

4. 学んだことを言語活動で再び活用し、学習を振り返る

パフォーマンス評価  
(テスト)

単元の目標に照らした振り返り  
(内容面・言語面)<sup>27</sup>

# 「質問したり答えたりしながらやり取りする力」を育成する

単元計画	学習過程	本事例での実践
第1時	1. コミュニケーションを行う 目的や場面、状況などを把握し、学習の見通しをもつ	<ul style="list-style-type: none"><li>・単元の目標を理解する</li><li>・指導を受ける前にゴールとなるパフォーマンスをする</li></ul>
第2時 ～ 第5時 (本時)	2. 内容を整理して伝える	<ul style="list-style-type: none"><li>・トピックに対する自分の考えを伝える</li><li>・教科書の本文等から【対話の継続】、【質問の仕方】、【話題の整理】について学ぶ</li></ul>
	3. やり取りを継続する	<ul style="list-style-type: none"><li>・伝えた内容に対する質問に答えていく中で、パフォーマンスを改善する</li></ul>
第6時 第7時 (後日)	4. 学んだことを言語活動で 再び活用し、学習を振り返る	<ul style="list-style-type: none"><li>・単元の目標に照らして、学習を内容面と言語面から振り返る</li><li>・パフォーマンステストで、学習したことを活用する</li></ul>

# 英語教育改善プラン推進事業

## Yamanashi Model 構築

～ 「話すこと [やり取り] 」 を中心とした発信力向上を目指して～



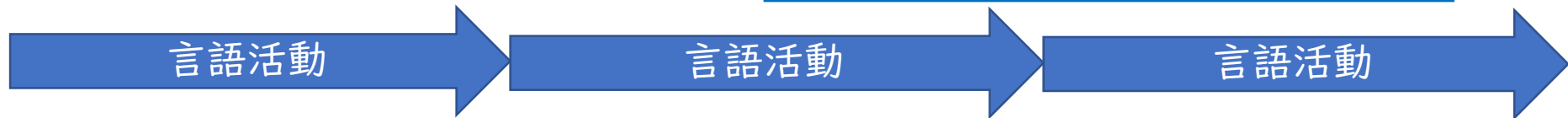
# 研究内容 イメージ図

「話すこと[やり取り]」  
目標と指導と評価の一体化



小・中・高を通じたCAN-DOリストに基づく  
パフォーマンス課題を年間指導計画に位置付ける

帯活動(スモールトーク)・中間指導・気づき  
思判表:適切さ(内容面)と知技:正確さ(言語面)  
言語活動を通して、資質・能力を育成

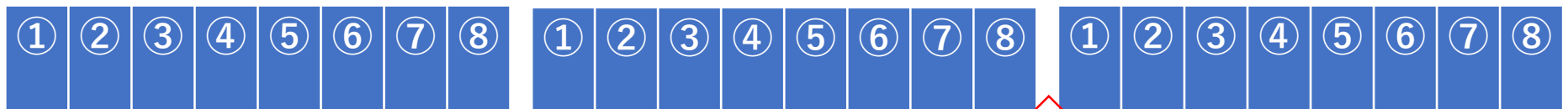


目的や場面、状況等に応じて、自分の考えや気持ちなどを伝え合う言語活動

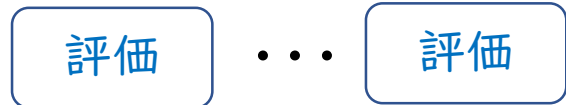
Unit 1

Unit 2

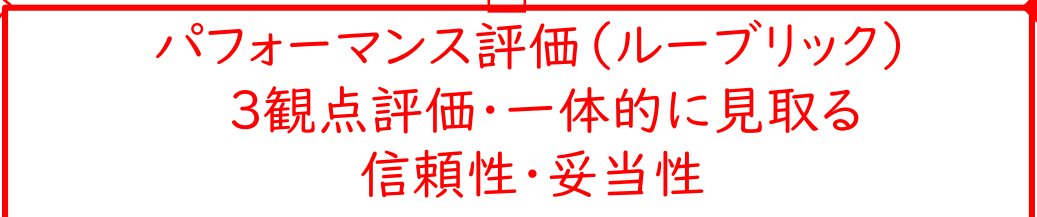
Unit 3 ... ..



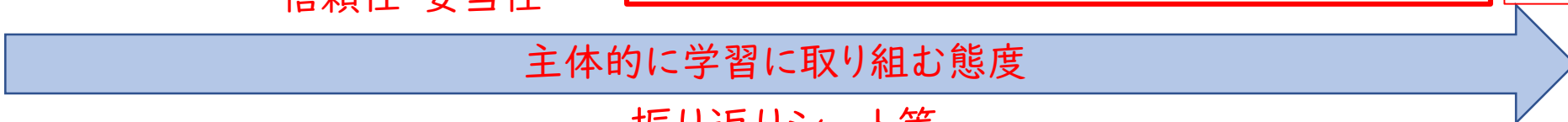
「指導に生かす評価」



「記録に残す評価」  
信頼性・妥当性



学期末



振り返りシート等  
ICT活用(1人1台端末)

# Yamanashi Model 構築

～ 「話すこと [やり取り]」を中心とした発信力向上を目指して～

I 話すこと [やり取り] (スモールトーク)



II 言語活動の充実

**Yamanashi Model**  
3本の柱

III パフォーマンス評価

**Yamanashi Model**  
支える要素

CAN-DOリスト

ルーブリック

小・中・高連携

振り返りシート

• • •

## I 話すこと[やり取り](スモールトーク)

## Yamanashi Model 3本の柱

身近な話題や社会的な話題について、既習事項を使った**即興的**なやり取りを**継続**すること。授業の導入や、教科書内のどの活動でも、教科書本文内容を使っても可。

## II 言語活動の充実

「**目的・場面・状況等**」に応じて、習った表現を用いて、**児童生徒が思考・判断しながら、自分の考えや気持ちなどを伝え合う活動**。形式的なドリルは、言語活動ではない。身近な話題から社会的な話題まで考えられる。

※話すこと(やり取り)における考え方

※複数の領域を統合した言語活動も可

## III パフォーマンス評価

言語活動でパフォーマンス(やり取り)を行ってみることで、何ができて、何ができていないかを**児童生徒に気付かせ、共有し、次のパフォーマンスで改善**することを目指し、**自己調整を繰り返し行っていくこと**。(中間指導)

そのために指導・評価観点となる「**ルーブリック**」や自己調整を行うための「**振り返りシート**」が必要。**信頼性、妥当性**あるパフォーマンス評価を実践。

## CAN-DOリスト

## Yamanashi Model 支える要素

小中高を通じて、できるようになってほしい力のイメージを教師および児童生徒と共有。教師にとっては、指導の方向性や言語活動の位置づけを確かめたり、児童生徒にとっては、何をどこまでできるようになっているかを確かめたりするもの。「自律(立)的学習者」の育成を目指す。

## 小・中・高連携

①情報交換(授業参観等)

②交流(研究会等)

=学習・指導・評価における内容や方法等の共有  
(言語活動・言語材料・教材等の共有)

※各学校・地教委 等

③カリキュラム

=目標と評価の共有

小・中・高を貫く山梨県版CAN-DOリスト・年間指導計画に位置付けた  
パフォーマンス課題例の提案

※ワーキンググループ・県教委 等

## ルーブリック

## Yamanashi Model 支える要素

「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体的に学習に取り組む態度」の3観点があるとよい。信頼性・妥当性あるパフォーマンス評価（改善）を行うために、教師と児童生徒が共有する。表現技能（話すこと・書くこと）では、知技：英語使用の正しさ・正確さ、思判表：（目的・場面・状況に応じた）表現内容の適切さ、主体：言語活動で表出した態度 を一体的に評価することもできる。

## 振り返りシート

言語活動やパフォーマンス評価において、自分ができたこと、できなかったこと、改善したいこと、考えたことなどを記録させ、客観的に自分のパフォーマンスを振り返らせる。パフォーマンスとともに振り返りをICT機器に残すこともできる。



「スモールトーク」や「言語活動」の中での中間指導において、「ルーブリック」に記されている評価観点（＝育成したい力）を、児童生徒に気付かせ、繰り返し共有し、最終的なパフォーマンステストで評価を行う。

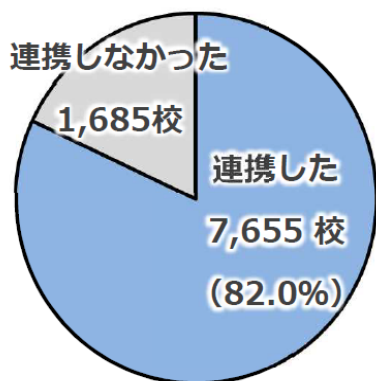


# 【参考資料】小中高連携について

## 小学校・中学校・高等学校の連携に関する状況

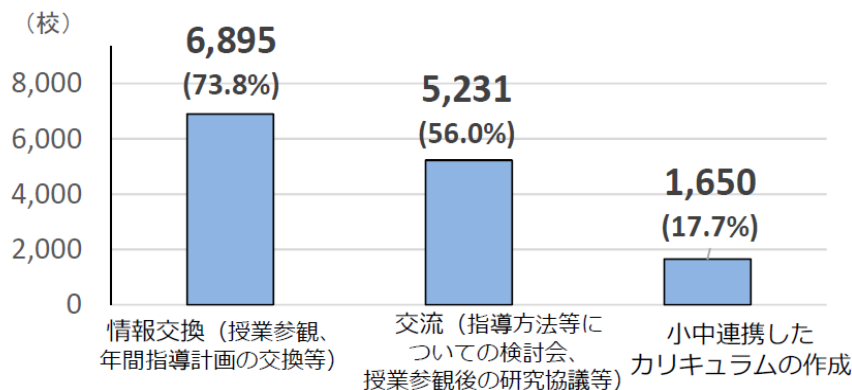
○小学校との連携に取り組んでいる中学校の割合は82.0%であり、未だに全学校には至っていない。地域によって、大きな差があることが課題。

### 小学校との連携に取り組んでいる中学校



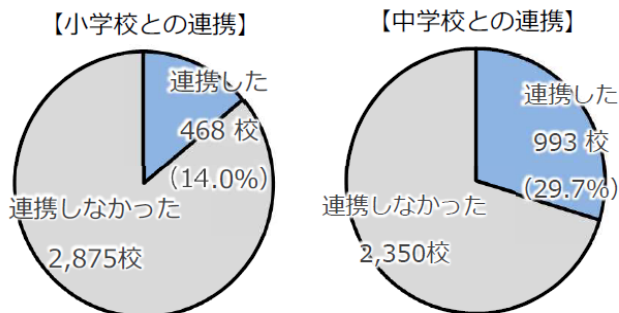
※全体数は、調査対象の中学校9,340校。

### 【中学校と小学校との連携の形態】



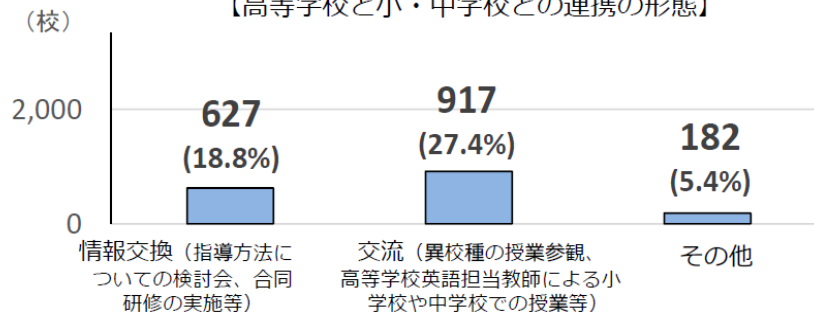
※令和元年度より、全学校数を分母として割合を計算。（平成30年度までは、小中連携した（する）学校数を分母として割合を計算。）

### 小・中学校との連携に取り組んでいる高等学校



※全体数は、調査対象の高等学校3,343校。

### 【高等学校と小・中学校との連携の形態】



※全学校数を分母として割合を計算。

# 生徒の英語力向上に向けた分析

授業改善に関する各項目（生徒の言語活動、教師の英語使用、ALTやICTの活用、小中連携等）の実施状況が高い都道府県・指定都市ほど、生徒の英語力に関する指標が高い傾向が見られる。

## 生徒の英語力と各項目の相関（都道府県・指定都市別）

### 中学校（A1相当以上の生徒の割合）

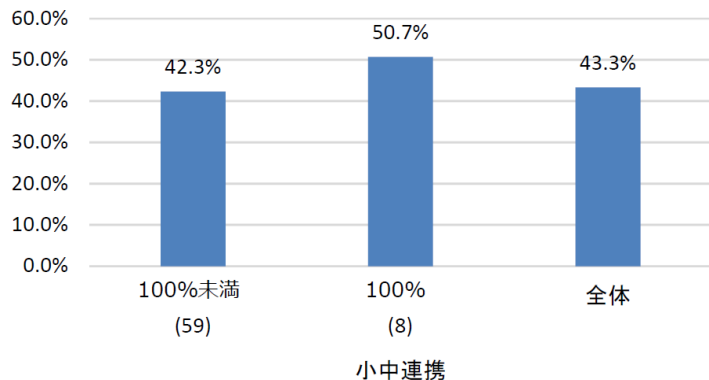
### 高等学校（A2相当以上の生徒の割合）（全学科）

強相関 (R $\geq$ 0.7)	中相関 (0.7>R $\geq$ 0.4)	弱相関 (0.4>R $\geq$ 0.2)
	小中連携カリキュラム、検定試験受験経験率	ICT活用有り(遠隔交流、話すことへの活用)、検定試験受験経験率
	生徒の言語活動中心(75%以上)、教師の英語使用中心(75%以上)、ICT活用有り(デジタル教材、話すことへの活用、メール・SNS、キーボードで文章書く)、小中連携	教師B2取得率、生徒の言語活動中心(75%以上)の授業、教師の英語使用中心(75%以上)、ALT活用(パフォーマンステスト普通科、ALT授業外普通科)、JET及び直接任用割合、ICT活用有り(デジタル教材、録音・録画、キーボードで文章書く)

※生徒の検定試験受験経験率の高い地域では、言語活動の実施状況、教師の英語使用、パフォーマンステストの実施状況も高い傾向があることから、単に検定試験を受けさせているのではなく、授業改善の一環として行われていることがうかがえる。その他の項目間(例えば言語活動の実施状況とICT、ALTの活用など)にも相関が見られ、様々な取組が関わり合っていることがうかがえる。

### 例) 中学生の英語力と小中連携

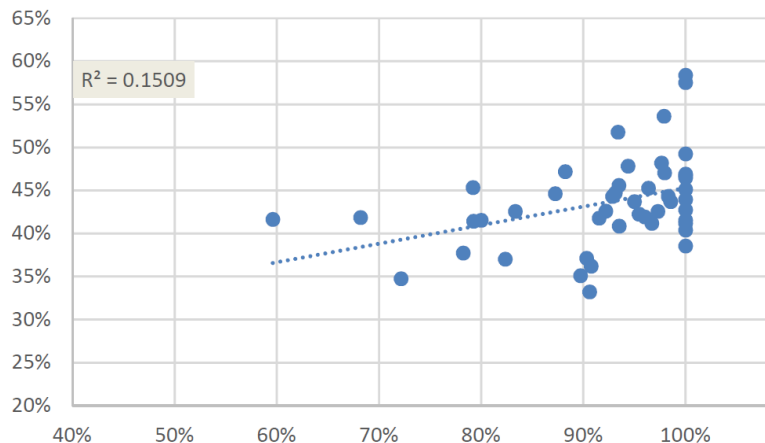
生徒A1相当以上の割合（都道府県・指定都市別）【縦】  
×小中連携実施状況【横】



※ ( ) 内の数字は都道府県・指定都市数

### 例) 高校生の英語力（全学科）とICT活用

生徒A2相当以上の割合（都道府県別）【縦】  
×ICT活用状況【横】



## R3 年間計画(1学期)

※年間計画については,変更の可能性あり。

- 4月 指定校連絡会議(22日)  
指定校:第1回アンケート実施(~5月上旬)
- 5月 指定校・県教委準備(指定校訪問・学習会等)  
「事業計画書」等の提出
- 6月 指定校・県教委準備(指定校訪問・学習会等)  
第1回ワーキング(23日) ※太田洋教授は,15:30~ Zoomで参加予定  
・事業概要,全体計画の確認  
・4月のアンケート分析  
・大学有識者(アドバイザー)からの指導助言  
※1学期に行った(行う)パフォーマンス課題・ルーブリック 持ち寄り
- 7月 指定校訪問・学習会等
- 8月 小・中・高連携研修会(10日) ※講師:太田洋教授  
富士河口湖町地区(小立小・河口湖南中・富士河口湖高校)発表

## R3 年間計画(2学期)

※年間計画については、変更の可能性あり。

9月 第2回ワーキング(小・高:9日 中:27日)

- ・指導案検討(10月・11月・12月の授業において)
- ・山梨県版CAN-DOリストに基づいたパフォーマンス課題例の提示(2学期末に向けて)
- ・8月の研修会の振り返り

10月 提案授業【葎崎小】  
提案授業【〇〇小・中・高】

11月 提案授業【常永小】  
提案授業【長坂中】  
提案授業【〇〇小・中・高】  
パフォーマンス評価の実施(指定校)

12月 提案授業【押原中】・【甲府昭和高校】  
提案授業【〇〇小・中・高】  
パフォーマンス評価の実施(指定校)

6月中には、提案授業のスケジュールを調整・決定したいと思います。各校種の指導主事と連絡をとってください。決定次第、一覧表にまとめて、送付します。

## R3 年間計画(3学期)

※年間計画については, 変更の可能性あり。

### 1月 提案授業【〇〇小・中・高】

研究指定校によるZoomオンライン研究会を予定

指定校: 第2回アンケート実施(～1月下旬) ※2月4日提出×切

### 2月 第3回ワーキング(24日)

・10月～提案授業の振り返り

・山梨県版CAN-DOリストに基づいたパフォーマンス評価の振り返り

・R3年度の振り返り, 成果の共有・普及について

・R4年度に向けて(成果発表会等)

R3年度委託事業報告 / R4年度委託事業申請

### 3月 義務教育課HP等に成果物をアップ

R3年度委託事業報告 / R4年度委託事業申請

## 英語教育改善プラン推進事業

### 第1回研究指定校アンケート結果

小学校(教員用・児童用) 中学校(教員用・生徒用) 高等学校(教員用・生徒用)

#### ○目的

本事業を通して、英語担当教師が授業改善(指導改善・評価改善)を行うとともに、児童生徒が学習改善をしながら、英語による発信力を向上させていく変容を見取る。また、本事業の成果と課題を明確化するツールとする。

#### ○対象

教員:外国語(英語)担当教師全員(外国語活動・外国語科担当教師)  
児童生徒:外国語(英語)を学習している児童・生徒全員

#### ○時期

第1回:4月下旬~5月上旬 ※提出期限:5月21日(金)  
第2回:1月中旬~1月下旬 ※提出期限:2月 4日(金)

#### ○方法

・Google フォーム or Microsoft Forms  
・Excel

#### ○結果 別紙参照

# 外国語科授業づくり・授業力アップ 夏期研修会のご案内

これからの  
外国語教育が  
わかる夏！



小中学校での新学習指導要領が全面実施、来年度からは高等学校でも段階的实施となります。外国語教育はまさに改革の最中にあります。この夏、総合教育センターでは著名な講師の先生方をお迎えし、これからの外国語教育についての研修会を企画しています。山梨県の外国語教育の発展のためにも多くの先生方のご参加をお待ちしています。



研修番号	期日	研修会	講師	時間
275	8月3日(火)	外国語科授業力アップ研修会Ⅱ ～これからの外国語教育～ 新学習指導要領について、これからの外国語教育に求められていること、方向性、評価など、多くのことについて詳しく学びことができます。	文部科学省 教科調査官 山田 誠志先生	受付13:15～ 13:30～16:30
271	8月10日(火)	外国語科授業づくり研修会Ⅰ ～小中高外国語教育の連携～ 10年間の外国語教育において、どの段階でどんなことを学ぶのか、校種を越えて知ることを通して、指導力の向上を図る機会となります。	東京家政大学 教授 太田 洋先生	受付9:30～ 9:45～12:45
272	8月17日(火)	外国語科授業づくり研修会Ⅱ ～CAN-DOリストに基づいた評価～ 指導と評価の一体化の考え方から、CAN-DOリスト、PDCAサイクルに基づく単元計画等について、実践を通して学ぶことができます。	文部科学省 学力調査官 市川 信子先生	受付9:30～ 9:45～12:45
273	8月17日(火)	外国語科授業力アップ研修会Ⅰ ～テストとパフォーマンス評価～ CAN-DOリストに基づいたパフォーマンス評価やルーブリックなど、評価の具体的な方策について、実践を通して学ぶことができます。	文部科学省 学力調査官 市川 信子先生	受付13:30～ 13:45～16:45
274	8月19日(木)	外国語科授業づくり研修会Ⅲ ～外国語科指導法演習～ 英語指導の理論と実践方法について、実践を交えて学ぶことができます。若手教員や小学校の先生方に特にお勧めです。	山梨大学 教授 田中 武夫先生	受付13:15～ 13:30～16:30

◆お申し込みはセンターホームページよりお願いします。6月16日(水) 申込〆切 〆切間近です!!

◆お問い合わせ先： 山梨県総合教育センター 学校教育支援部 研修指導課 三枝 朋佳 電話：055-262-5871 (直通)

Thank you for your attention.